

伝統という宝

Laos ラオス

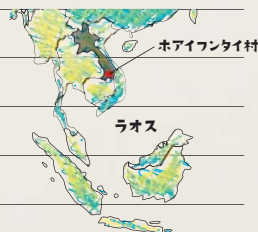


「とても上手に織るね」。そう話し掛けると、姉妹は恥ずかしそうにしながらも少し得意げに布を織り続けた。ラオス南部、ホアイフンタイ村で暮らすカトゥー族の女性は、7歳になると母親から先祖代々伝わる織り物を習うそうだ。

ラオスは50ほどの民族が暮らす多民族国家だ。近年の急速な発展に比例するように少数民族の伝統が失われつつあるが、この村の人々は、織り物の伝統を大切に守り続けている。

ある日本企業がその手先の器用さに引かれ、輸出用に量産品の製造を委託しようとしたことがあるが、村の会議でその話は断ることになった。村長はこう言った。

「企業の仕事を請け負えば安定したお金をもらえるが、私たちの誇りである伝統の織り方ができなくなる。この技術は私たちの存在意義なんだ。それがなくなるのは何よりも辛いことだ」。私はまた、ラオスが好きになった。



撮影：丸山陽平（ラオス／青年海外協力隊）

あなたの作品募集中！

「my photo」では、あなたが撮影した写真を募集しています。貧困や環境問題などをテーマにした写真、国内外問わず国際協力の最前線で活動に励む日本人や開発途上国の人の姿、テレビや新聞ではなかなか報じられない土地の風景や人々の暮らしなど、国際協力や途上国を身近に感じられる写真を、撮影時のエピソードを添えてご応募ください。応募作品の中から毎号1枚、本コーナーで紹介させていただきます。

応募条件 ①応募者本人が撮影した作品に限ります。②被写体に関する肖像権は、応募者の責任において了解が得られているものとします。③写真は、解像度が300万画素以上（目安）で撮影されていること、また画像の記録形式はJPEGを推奨します。

応募方法 お名前、連絡先（電話番号とEメール）、エピソード（300～350字）、記名の可否をご記入の上、写真とともに応募先アドレスまでEメールでお送りください。

*応募作品は本コーナーの他に、事前確認の上でJICAの広報活動に活用させていただく場合があります。ご記入いただいた個人情報はこちら以外の目的では使用いたしません。また、応募作品はご返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

応募／問い合わせ先

jica-photo@idj.co.jp

（『mundi』編集部宛）